

中部の製造業、大樹に注目

スペースコタン
小田切CEO 名古屋で招へい講演

【名古屋】ものづくりの大集積地・中部地方が、北海道・大樹の宇宙産業に関心を寄せている。同地域の大手企業元幹部らが加盟する「技術経営士の会東海支部」が15日夜、SPACE・COTAN（スペースコタン、大樹）の小田切義憲CEOを名古屋市内に招き、公開セミナーを開催。これを機に道内で宇宙分野を手がけるスタートアップと、中部の製造業とのビジネスマッチングに乗り出す。同地域との連携が実現すれば、北海道の宇宙産業の技術力が一気に底上げされる可能性もある。（奥野秀康）

ロケット部品供給も視野

技術経営士の会東海支部には、トヨタ自動車や中部電力、トヨタ系部品メーカーなどで技術開発や生産畑を歩み、経営にも携わった専門家が集まっている。支部長はトヨタの元副社長、新美篤志氏。

次世代の成長ビジネスとして宇宙産業に注目しており、2023年夏に北海道スペースポート（HOSPO、大樹）と大樹町を表敬訪問。現地視察を踏まえ、垂直打ち上げと水平離着陸の両方に対応できるHOSPOと、大樹を拠点に宇宙輸送サービスの事業化を目指すスタートアップ企業の将来を有望とみている。

このため、「HOSPOの運営会社であるスペースコタンの小田切CEOを招き、中部地方の企業にHOSPOや大樹の取り組みを広く紹介してもらおうことにした」（事務局）という。

15日夜のセミナーへの申し込みは前日段階で160人近く。技術経営士の会本部（東京の山下徹会長（元NTTデータ社長）も参加し、取り組みを全国規模に広げる可能性も探る。

技術経営士の会東海支部は今後、会員らが持つ豊富な人脈を駆使し、中部のものづくり企業数百社にアプローチし、道内のロケット企業などに部品を供給する

協力組織を設立することも検討する。「セミナーをきっかけに機運が盛り上がり、活動を前に進めたい」（同）としている。

こうした取り組みを機に事業交流が進み、本州のものづくり企業とのタッグが実現すれば、北海道の宇宙産業にとって心強い味方となりそうだ。